



第8期受け手養成講座を開催

※「(公財) 高知新聞厚生文化事業団 助成事業」を受け開催しました。

チャイルドラインこうちの新たな電話の受け手を増やすことを目的に、第8期受け手養成講座を開催しました。この受け手養成講座は、2010年の設立以来、定期的に開催しているもので、今回は3年連続8回目の開催となります。

2019年度は、2019年10月13日から12月8日までの期間の計6日間、11のカリキュラムで受講いただきました。

本年度の講座は、18名に受講いただきました。この講座は、受け手となることを希望してはなく、子どもに関する知識習得を目的とした受講者もおります。

受講者のうち6名が1月から2月の期間で直接電話を受けるインターン研修に進みました。インターン研修を修了した方には、チャイルドラインこうちの新たな受け手として共に活動していくこととなります。

また、活動会員23名も継続研修と位置付け、学びを共有しています。

1回	チャイルドラインとは	チャイルドラインこうち副代表理事 吳 静恵さん
2回	高知県の子どもの育ちと現状 ～児童心理治療施設の現状から～	さくらの森学園施設長 中村 久美さん
3回	子どもの権利擁護	あさひの風法律事務所 弁護士 中島 香織さん
4回	子どもへの向き合い方	スクールカウンセラー 吉田 亜里咲さん
5回	自己分析、自己理解 コミュニケーション力	キャリアコンサルタント 岡田 一水さん
6回	高知県の子どもの育ちと現状 ～学校の現場から～	太平洋学園高等学校校長 光富 祥さん
7回	子どもの性と生	こうち被害者支援センター相談員 光本 朱實さん
8回	過去・現在・未来 コミュニケーションスキル	チャイルドラインこうちスタッフ
9回	発達障害の支援	JA 高知病院小児科医師 本淨 謹士さん
10回	話の聴き方のスキルアップ	チャイルドラインこうちスタッフ
11回	受け手としての心得・実務	チャイルドラインこうちスタッフ



【受け手養成講座の概要】

1. 「チャイルドラインの目的や活動意義」を理解する。
2. 児童福祉施設職員、弁護士、スクールカウンセラー、学校教員、小児科医師から「高知県の子どもを取り巻く現状と課題」「子どもの権利擁護」「発達障害」を学ぶ。
3. 「子どもの気持ちを受け止める」ために、自己理解や電話での話の聴き方やコミュニケーションを学ぶ。

講座がほんとうによかったです。参加されている方の純粋な気持ちもすばらしかったです。

高知の子どもたちを取り巻く現状を知ることができたり、本当に勉強になりました。

子どもについて、今まで知らなかったようなことを学べて、とても良い経験になりました。

子どもの性について、率直な現実がみえて、聞けて良かったです。

虐待や性被害などこかドラマの中のことのように感じていたが、実際に身近でも起こっている現実を知り、これから受け手活動を考えるうえで気の引き締まる思いがした。

現実の状況は想像以上だということを改めて感じました。

自己分析について、具体的に使えることを教えていただいて役立つと思いました。

もっと早く講座を受けていたら、孫育ても違っていたかもと、深く自分自身を反省し、これからにつなげていきます。

学校では教えてくれないようなことも教えてくださり、ためになった。

発達障害についての話がとてもわかりやすく、先生の話し方もゆったりしていてホッとしました。

受講生の声

ご寄付のお礼 (2019年8月～12月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

<企業・団体の皆様>

- 食家「雅」様 6,000円 (寄付つきメニューより/7～12月分)
- (株)Climb the steps 様 2,800円 (寄付つきメニューより/8～12月分)
- 筒井紙業印刷(株)様 10,000円

<個人の皆様>

- 前田賢人 様、佐竹幸重 様、藤枝幹也 様、吉川清志 様、松崎淳子 様、中田裕生 様、森畑東洋一 様、ほか匿名2人

◆会員数 (2020年1月1日現在)

活動会員 53人
支援会員 37人・団体

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。



受け手継続研修を開催

※「(公財) 高知新聞厚生文化事業団 助成事業」を受け開催しています。

受け手として活動をしている活動会員を対象に、受け手継続研修を定期的で開催しています。2019年7月の第1回に引き続き、第2回を同年9月29日に開催しました。

高知県立ふくし交流プラザ5階研修室にて、研修部の呉静恵さんと平山幸恵さんが進行役をつとめ、17人の参加者ととも、「子どもの性の電話に関するふり返しと今後の対応」をテーマに研修を行いました。(第3回は2020年1月19日に開催する予定です。)



受け手として、日頃対応している中での疑問や葛藤、そして対応の仕方などについて意見交換を行いました。

○【性】の電話についての意見交換

- ・子どもは正しいか間違っているのかわからないから電話してくる。
- ・電話だから話しやすい。
- ・日常的なことではなく、経験不足から応えかたが難しい。
- ・傾聴のみではダメである。
- ・正確な知識を伝えることが大切。

ーまとめー

- ・あなたの気持ちに寄り添いたい大人がいることを伝えて欲しい。
- ・個人ではなく、チャイルドラインとして聴くことが大切。

チャイルドラインこうちにかかってきた子どもたちの声を紹介します。

(※全国の子どもたちからの声です。チャイルドラインこうちで受ける電話には、全国の子どもたちからの声が届きます。)
(※プライバシーに配慮して、内容を再構成しています。)

「言いづらいことだけど、お父さんが体を触ってくる。嫌と言えない。お母さんがいないし、頼れる大人の人がない。またチャイルドラインに電話する」(小学五年生)

「暗い夜が怖い。1人でいると震えが止まらないけど、親はとりあってくれないし、友達にTELしても出ないから、チャイルドラインにかけた。TELして良かった。震えが止まって、安心できた。」(17歳 女子)

「母が精神的におかしいような気がする。症状を言うので、病名を教えてほしい。」(高校生 女子)

「父と母は、亡くなった弟のことばかり思っている。わたしは生きていて良いですか？存在意義はありますか？父と母はわたしが生きていて良かったと思っているのかな？」(高校生 女子)

「休み明けに、いきなり友達に『大嫌い』と言われた。わけが分からない。悲しい。ショック。ほかの友達に確かめるのも怖い。死ぬしかないと思ったけど、話したら、頑張ってる理由を聞いてみようと思えてきた。」(小学校高学年 女子)

「友達に携帯を取られた。先生に言っても、その友達の方が優秀だから、その子の味方をする。学校に行くのがつらいけど、無理を言って行かせてもらっているから休むわけにいかない。でも、話したら少しスッキリした。」(高校1年生 女子)

「友達が陰口を言ってるのが腹が立つ！ムカつく！」(高校生 女子)

